

第3回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概 要)

先般開催した、令和6年度第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和6年 12 月 17 日(火) 13 時 30 分～15 時 30 分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室および WEB

3. 主な意見等

- 11 月の木材市況について、原木入荷は冬山造材で増える見通し。製品需要の減少により在庫の不足感はないが、一部工場で不足径級が発生している。エゾマツ・トドマツは夏の芯腐れや虫害により歩留まりが非常に落ちている。製材の荷動きは今後も厳しいといった声がある。道有林の立木販売入札は 11 月末で落札率 80%と、昨年同期から6%落ちており、落札単価も昨年の8割と大きく低下している。
- 今後住宅着工の不需要期を迎え、来春は住宅着工の本格化が例年より遅れると予想され、市況の更なる弱含みを危惧している。カナダにおける SPF の生産量減少により、輸入材の先細りが懸念される。今後は傷みの少ない材の確保により、原木需要は春先まで旺盛になるため、国有林材の素材販売の供給調整の必要はない。
- 素材生産の請負事業は順調に進んでいるが、補助縮小により、今後燃料油の価格が上昇することで、除雪等経費の上昇が心配される。労働災害が増加していることから、各地区の事業体への注意喚起をお互いに徹底したい。
- 輸入材の価格は下げ止まりで横ばい。依然不透明な状況だが、米国の関税問題等で底打ちから反転する可能性もある。道内のプレカットは、非住宅が比較的順調な一方、住宅はかなり厳しく、令和7年も同様に推移するとみられる。さらに令和7年度からの建築確認申請等の影響で、着工が1ヶ月ほど遅れると考えられる。
- 原料材は保合だが、民間の流通材が中々出てこない。約 1 年後バイオマス発電が1件稼働開始のため、価格の上昇が予想される。2024 年輸送問題への対応とライフサイクル GHG の導入により遠距離の材の調達が難しい中、今後さらに競争が激しくなる。
- 現在栈木は受注があり、今後も大きな変動なく続くと考えている。道内の資源は十分にあるが、人手不足等により今後道産材需要が増えた時に供給できるか懸念している。安定的な事業量の確保から、国有林材の素材販売の供給調整は必要ない。

- インフレによる物流量の減少に伴い、産業用資材の需要も減少している。2024 年輸送問題で物流のパレット化が進んでいるが、プラスチック製が市場の一定数を占めており、木製パレットのシェア減少に繋がっている。輸送業界では人手不足により今後 3 年で一気に物流が滞るといわれており、材を効率よく搬出して供給量を確保したい。近年夏材の虫害が多く、伐採後速やかに材を山から搬出する体制が必要である。
- 昨今の原料材における価格の高止まりにより、バイオマス発電の事業収支を圧迫している。人手不足等で材の供給量は現状増えていない。バイオマス発電や大型製材工場等の新設により今後需要の増加が見込まれる中、供給量の確保を林野庁含め、林業業界全体で考えていく必要がある。